

言心先生の中国便り

中国夢

最近、中国の媒体で頻繁に現れる単語が、「中国夢」である。日本語に翻訳すれば、中国の夢である。

去年の年末頃、習近平、李克強新体制が登場し、中国夢というキャッチフレーズを打ち出した。

元々、中国夢は「アメリカンドリーム」を参考にして、作られた言葉である。しかし、政府側と民間側では、中国夢の意味に対する理解は共通する部分は少なく、相対部分は正反対である。

中国の「南方週末」という媒体は、新年社説で中国夢を国民に自由・平等の権利を与えるという憲政夢と解釈したが、宣伝部が勝手にこの部分を削除し、中国夢は政治、経済、軍事の面で、強い国を作るという見解に

入れ換わった。このニュースを知って、中国の知識人、社会の下層階級は反発した。

「アメリカンドリーム」の真髓とは、違う人種、違う信仰、違う身分の人が、自由、平等、民主的なアメリカで、努力すれば誰でも自分の理想が実現できるということである。

北京市の趙常青等の「十君子」と江西省の劉萍等の「五君子」は、中国の最高立法機関全人代の常務委員会に中国夢について提案した。内容は、省長と部長以上の階級の205が、自分の財産を公開する事である。中国夢が実現される為には、自由、平等、民主的な社会環境は不可欠であると考えた上での提案だったが、高級官僚の財産は、国家機密等の理由で開示拒否された。また、これらの15人は、「違法集会罪」と「国家転覆煽動罪」の罪で逮捕された。

あまりにも残念な結果である。

中国の新体制は、対内的に現在の中国の腐敗、矛盾、格差等の社会問題を解決することより、対外的にアメリカと対決できる昔の中華大帝国を復元することを優先している。これは、一部の中国人に賛同されている。しかし、大多数の中国人と中国周辺の国々にとっても、この意味の中国夢はいい夢ではなく、悪夢かも知れない。

情報化社会に生きる中国人は、もはや簡単に洗脳されることはない。ネットでは、中国夢が酷評されている。あるネット利用者は、決められている時間、場所、形式で法律に従って夢を作り、夢話は絶対禁止という中国夢の国家基準が必要と言う皮肉な意見を、ネットに出した。

国民の「夢」まで管理している社会は、真の国民の「夢」が実現できる社会に最も遠いと思う。

